様式２号

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名　　藤岡　一弘

下記のとおり，視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名　　掛田　勝彦

経理責任者氏名　　増田　誠宏

期　　間	令和５年11月８日（水）
用　務　先	雲南市教育支援センター　おんせんキャンパス（雲南市木次町平田506）
用　　務	行政視察（不登校支援について）
概要及び所見（目的，参考にすべき事項，提言，活用策等）	○行政視察の内容 雲南市の不登校支援として、おんせんキャンパスの運営について ○おんせんキャンパスについて (1)おんせんキャンパスの概要 ・設置目的 様々な事情で不登校又は、不登校傾向にある児童・生徒に対し、個々の実態に合わせた支援を行い、社会性を身につけさせるため ・設置背景 合併後、教職員 OB 等により、市内２か所の教育支援センターを運営していたが、不登校児童生徒が増加傾向にあることや別室登校による対応の困難さ、教職員以外のかかわりによる対応への必要性を感じた。また、不登校経験者への聞取りから、コミュニケーションや体力（体験活動）を意識した支援が必要であることから、新しい体制を構築した。 ・運営形態 業務委託方式（官民連携による運営）→運営団体　認定 NPO カタリバ（東京都）

	(2)おんせんキャンパスの特色 ①強固な官民連携体制 　市役所関係部局との連携や行政と学校との会議体の設置、外部機関との連携を行い、アウトリーチ型・訪問型支援を実施している。 ②スタッフの多様性、教育 NPO の柔軟性 　教育経験者、社会教育経験者、心理職、民間企業等からスタッフ体制を構築 ③地域とともにある教育支援センター 　農業体験やボランティア体験、職場体験 ④　家族サポートプログラム 　保護者会、個別相談会、専門家講座、体験談共有、ペアレントトレーニング (3)おんせんキャンパスの目指している姿 　子ども、保護者、先生方、スタッフ、みんながシームレスに行き来している教育環境を目指している。学校だからできることとおんせんキャンパスだからできることを合わせた、協働の実現を行う。 ○所感 　三次市において不登校児童生徒の人数や予備軍といわれる子ども達が増加傾向にある。三次市では、教育支援センターやSSS ルームの支援や活用、民間のフリースクールとの連携など不登校支援を行っているが、多様な不登校理由に現場支援が追いついていない印象である。今回の視察で、不登校児童生徒への支援や家族への支援について、本市でできることを考えていく機会になった。

様式２号

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名　　増田　誠宏

下記のとおり，視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名　　掛田　勝彦

経理責任者氏名　　増田　誠宏

期　　間	令和５年１１月８日（水）
用　務　先	雲南市教育支援センターおんせんキャンパス 雲南市木次町平田５０６
用　　務	教育支援センター視察
概要及び所見（目的，参考にすべき事項，提言，活用策等）	【応対者】 雲南市議会副議長・議会事務局 雲南市教育委員会　担当者 ＮＰＯカタリバ　担当者　他 【概要】 雲南市教育支援センター『おんせんキャンパス』は、様々な事情で不登校・不登校傾向にある児童生徒に一人ひとりに合わせた支援をすることを目的に設置されている。設置の背景は次のとおりである。 ・合併後、市内２か所の教育支援センターを運営していたが、不登校児童生徒が増加傾向にあること ・別室登校による対応が困難になっていること ・教職員以外のかかわりによる対応策への兆しがでてきたこと ・キャリア教育を柱とする人づくりをしていくこと ・不登校経験者のニーズに合わせて、コミュニケーション、体験活動をしていくこと 主管課は教育委員会であるが、運営形態は業務委託方式（官民連携による運営）となっており、運営団体は認定 NPO カタリバ（東京都)である。

	『おんせんキャンパス』は廃校となった市立温泉小学校を活用している。施設はＮＰＯカタリバにより運営されており、担当者の説明により施設見学した後、雲南市の不登校の状況、施設の概要・特色など、多様な居場所づくりなど今後の不登校対策について説明を受けた。 【所見】 元小学校であったため、施設は広く体育館もあることから、子どもたちが自分達のスペースを確保しながら自由に学び一日を過ごしているようである。地域との連携も含めて、民間ならではの個々に応じた充実したプログラムがあるようであった。 本市もこども応援センターや市内中学校２校にＳＳＲ（スペシャルサポートルール）を設置するなど不登校支援をしている。また広島県不登校支援センター（スクールエス）の利用や連携を図っているが、スクールエスは東広島市であり、登校するには困難な状況もある。県北にもスクールエスのような施設は必要であり、その対応の一つとして、雲南市教育支援センター『おんせんキャンパス』は参考となる。

様式２号

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名　徳岡真紀

下記のとおり，視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名　掛田勝彦

経理責任者氏名　増田誠宏

期　　間	令和５年11月８日(水)
用　務　先	島根県雲南市　学校教育支援センター　うんなんキャンパス
用　　務	雲南市における困りを抱えた児童生徒への取り組みについて
概要及び所見（目的，参考にすべき事項，提言，活用策等）	全国の不登校児童生徒数は約30万人に上り、本市においても不登校児童生徒数は増加しており、すべての子どもたちが等しく教育を受けることが困難で、本市の大きな教育課題の一つだと考える。 そこで、島根県雲南市においてさまざまな理由で学校に行くことができない児童生徒のために廃校を活用して作られ、また、専門のNPOと連携し、学校でもフリースクールでもない子ども居場所、「雲南市教育支援センター「おんせんキャンパス」を創設された。 学校での生活に不安や戸惑いを抱えている、学校へ通うことに困難さをお持ちの子どもやそのご家族のためのサポート機関として2015年6月にオープンされた。 都会的な環境でなくのんびりした自然いっぱいの景色のなかにある廃校公社を利用した木のぬくもりの温かい校舎では、主に小中学生が自分でカリキュラムを決めて、それに大人が寄り添う形でのそれぞれの時間の過ごし方をされている。 また、家から出ることができない、学校の支援ルームにいっているがときどきおんせんキャンパスも利用するなどの子どもたちに対してもアウトリーチ型の支援で、家や現場での寄り添いも行われている。 また、困りを抱えるお子さんをお持ちの保護者に対しても、きめ細やかなサポートが行われており、さらには行事として、ペアレントトレーニングの講座なども随時行われており、突然学校に行けなくなった子どもたちに保護者としてどのように向き合っていけばよいのか、という学びの場も作られている。 また、ななめの関係性をと一番子どもたちに近い高校生や卒業生との交流や大学生などとのかかわりも作られている。また、楽器や実験道具などもそろえ、子どもたちが学びたいという好奇心にこたえられるよう、設備も地域の方、保護者のかたと協力して整備されている。子どもたちが安心してこの環境で過ごしていいんだよという空間を作るために、ぬいぐるみやゲームなどアットホームな空間を心がけられていることがうかがわれた。 本市では不登校や困りを抱える子どもたちへのこういった取り組みが非常に遅

	れていると感じている。また、保護者へのサポートもしかりである。 　ここでのポイントは専門のＮＰＯに運営を委託されているということだ。 やはり、教育委員会だけでは難しいことも、ＮＰＯなどと連携して本市の子どもたちが誰一人取り残されない、そして安心して学生時代をそれぞれのペースで歩んでいけるように、全力を尽くすことが少子化対策、子どもの夢を実現することにつながると考える。 そして保護者の困りに寄り添い、安心して子育てできる環境を作っていくことが本市が教育行政の中で早急に取り組むべき課題だと改めて思いました。